



# 無事故を祈る

高崎 修

一年間に全国では、交通事故で一人、工場や現場での労働災害で二千人、農業でも四百人が死亡しているという。負傷者を含めると莫大な人数に及ぶ。事故による損害も大きく、当事者の胸中は察するに余りあるが、早く立ち直って欲しいものである。

事故防止のためには、運転者、作業員はもとより、事業者、管理者も機会設備の点検整備や、安全な運転や安全作業を確実にこなすことが必要である。しかし、言うは易く、実行し難いのも事実である。

かつて、私の生家でも、明暗分けた事件があったと祖母から寝物語に聞かされたことがある。先祖は、幕末の初期に福山と東城の間を馬一匹を追って運送業を行っていたが、二つの難所があったという。

第一は、川沿いのがけの上の街道に滑り易い岩が有り、この岩を避けて通過させるため、特に冬期には注意したという。道端には沢山の石が並んでいたが、犠牲になった牛馬の墓ばかりであったという。

## PTA会長時の思い出(3)

村上徹郎

**現代教育考**

私がPTA会長をさせていた年代は、去る昭和四十九年のことではないかと、定かではございませんが、現在も続いておられます日教組の活動が激しい時代でございました。当時の校長先生、教頭先生と教職員との話が平行線、大変ご苦労なされたと思います。

当時深小には、元広先生が着任なされていて旗振り役の先頭に立っておられましたのによく覚えておられます。現在は一八〇度立場が変わり、三原市教育委員会学校教育課長を拝命され、どんな思いでおられるか毎日見守っている一人でございます。

特に記したいのが全国で最下位の学力しかない広島県。広島県の中でも三原市が又低いという事実であります。

校長先生の自殺問題もあり、又、福岡市立小学校の卒業式のトラブルで、教員が福岡高裁で控訴棄却の判決が出ております。もう少し学校・父兄・地域社会三者が対話を深め、よりよい学

第二は、街道の途中にある廃跡に住む狼への対策である。

この場所へさしかかると、いつも狼がかけ下りてくるので、握り飯を一個投げ与えて狼の気を静める。食べ終わって狼がしばらく後を追ってくるので、馬の前へまわり帯を解いて道を引きずる。帯がたれていて一間余の範囲には狼が近寄って来ることにはないので、馬が驚いて暴走することはないのである。運送業の先祖は、いつも確実に事故防止を行ない、無事故で生涯を終えた由である。

孫の代になると、山陰地方での伐採事業に乗り出したが、

現場の休日に付近の子ども達も山へ上り、トロッコに乗って遊んでいる中に動き出して暴走し、多数の死傷者が出た。事業は廃止し、多額の補償金で家運は一気に傾いたとのことである。

災害発生により事業の存続が危うくなるのは、昔も今も変わらないことである。事故防止対策を徹底した人、手抜きがありがたてて事故を発生させた人、両方の先祖の教訓を基に、この一年間を無事故で乗り切るべく心がけたい。

## 世代交流事業に参加

深町二八八・二八九・二九〇・二九一

十二月五日、三原市社会教育課主催の「世代交流事業」が深小学校PTAの方々の企画で実行されました。

午後一時半下組バス停留所を出発し、途中旧「深田村」の歴史を教わりながら、今日の第一目的地、尾道市久山田水源池を目指しました。

到着したのは午後二時、深町の取水口からダムまでの高低差が記入されたアイデア地図で説明を受けました。

## 備後運動公園へ

久山田から備後運動公園への道は、みんな初めてのハイキングコース。四十分あまりの山路を、積もった落ち葉を踏みながら歩きました。山路なのに両側の雑木が切り払われ、歩き易いので引率の校長先生に尋ねてみたら、尾道老人会の散策コースになっているので、との話。

日頃の運動不足で、歩く自信が怪しくなったので運動公園で解散。ほとんどの者は、迎いの車で帰りましたが、十二人は歩いて来た山路に再度挑戦しました。暮れと雨のため、お父さんの暖かい背中が帰った子どももさめた交流事業でした。

## 入賞おめでとう

岡崎沙里さん(三年) 砂田晃良君(四年)



昨年十月、郵政省主催の「私のアイデア貯金箱」全国大会三原予選で、深小学校から応募した中、二人が入賞し三原郵便局長から表彰されました。

教科書の枠に囚われず、誰れでも、自由な発想で挑戦できる今回のようなコンクールには、今後とも進んで参加してほしいものです。

謹んでお悔み申しあげます

★中司五郎様 八六歳 十一月十一日

## 一月町内各種団体行事予定

- ◆小学校(幼)
  - ◆始業式 七
  - ◆給食開始・貯金日 二〇
  - ◆身体検査・集金日 二二
  - ◆弁当始め(幼) 二二
  - ◆とんど準備 二二・二三
  - ◆新春ふれあい広場 二三
  - ◆進学説明会 二五
  - ◆参観日・お楽しみ会 二八
- ◆尚寿会
  - ◆新年ご礼会 二〇
- ◆女性会
  - ◆新年ご礼会 二〇
- ◆町内会
  - ◆役員会 二五
  - ◆上 役員会 二五
  - ◆下 とんど祭り 二五
  - (準備 九日)
  - ◆総仏さん 二〇

## お知らせとお願ひ

現在、お届けしています「ふかまのまご」、毎月約四〇〇枚印刷配布しています。家庭に届けていない他に入用の方は、町内会長に希望枚数を申し出てください。

お願ひは、身近な話題の提供です。明るい話題を歓迎します。寛見・随想・文芸作品等何でも構いません。匿名は不可。

五輪誘致疑惑・北鮮不審船騒動・金融破綻(天季一五行に公的資金七兆五千万)・企業統合併・世羅高校校長自殺・学校給食に異物・学級崩壊・則定東京高検検事長女性スキヤンダルで辞職・神奈川県警一家の「マニ」犯罪・トンネル落下事故・年休破り・JOC核臨界事故・防衛庁の燃料 船舶修理談合・商工ローン強引商法問題・H2ロケットの発射失敗・「お受験」殺人・ノック知事ワイセツ辞任。

◆新聞切り抜きから拾った昨年の事件簿。勿論これはほんの一部分、事件扱いに出来ない就職就労問題は深刻。売れないから造れない人々や設備が余る先不安で出費を押しさえる。経済のメカは素人の私には分らない。不況脱出の方法は深町か。

◆人口千人ばかりの深町。千人のこの数字も、他所から転居してもらったからこままでになった。近年小学校も複式から単式に。如水館の深町への移転と、昨年十二月オープンした社会福祉法人 泰清会の各種施設は、深町の知名度を高めてくれる大切な財産。◆道一本造るにも投資効果は検討される。公共投資の効果評価にこれらはきつと役立つだろう。自治体には町にしろ人口減はプラ要原因はならない。今後は学校を中心とした新しい発想での町作り。隣の町では孤独死の話も聞く、暖か味のある町でありたい。



(八代(留置)会長)

# 深の歴史余話 (三〇)

高崎 壽郎

## 子どもの遊び古今(2)

社会の急速な変化は、子どもたちの遊びも変えてしまった。年中行事の感のあったメンコ(パッチン)・ビー玉、独楽廻し(こままわし)も、昔の思い出となった。

今の小・中学生の遊びの中心は、室内でのテレビゲームである。時々の流行でゲーム・ウォッチ・タマゴッチ・ハイパー・ヨーヨー、フアービー人形等も登場したが。

今の子どもの遊びの特徴をあげる。

まず、大自然の中での遊びが少ない。遊びの主流は室内での一人遊び。だから、遊ばば遊ぶほど、子どもは自然から離れる。同じ部屋で何人遊んでいても、していることはてんでバラバラ。只集まっているというだけ。だから、遊ばば遊ぶほど子どもは集団は崩れる。

次は、機械遊びが多い。今の遊びは、変化が速く秒単位。その上遊びに金がかかる。そこで、

今の子どもはすぐお金をはしがらる。昔の子どもは、遊びにお金のかからない工夫をした。又、自分達で遊び道具をつくらたりもした。

三番目は、今の遊びには伝承がない。

昔の遊びにはガキ大将がおり、異年齢集団の遊びを仕切っていた。

勉強は出来なくても、遊びは得意な子がいた。彼らは小さい子に、いろいろな遊びを教えたのである。

このように、親や教師が教えなくても、遊びは確実に伝承されていく。

平成十四年(二〇〇二)から学校は完全に週五日制になる。子どもたちが週末を有意義に過ごすよう、学校・家庭・地域社会が連携し、対応していく必要にせまられている。

★☆☆☆



喜代子

喜代子

す。その時はデッキに二・三人が走り寄って、ヨイショ・ヨイショとロープを引っ張り、五、十キロのものが甲板の上でドタンバタンと跳ねます。

又、ある時は、魚の代りにカモメが釣れることもあり、釣れると海が時化ると言う話なので、静かな屈の日に突然夕立雨の様なザアザア、と言う音を聞き、デッキに出てみると、何十万とも思えるイワシの大群がシャチに追われて、海面すれすれに飛びながら逃げる光景もみられます。

## 「近東伊太利航路」の思いで (3)

秋本 俊之

台湾の北端が見え始めた頃より一日はしると、最早台湾の姿は見えなくなり、島影の無い南支那海の大海原を毎時一〇ノットの速度で南下を続けます。

南に下がる程、海は風の無い屈の日の続きます。平穩な航海が続く時は甲板部、機関部は夫々舷内の保守点検整備等を企画します。甲板部は非番の乗組員も動員し、ボート遭難と言う名目で、緊急総難時に救命ボートに依る本舷より脱出のために、ボートをダビットから吊り上げ舷外に逃げる訓練を、又、舷の荷役をする場合、港の岸壁にある荷役装置(グレーン)が使用されない場合は、本舷の船倉毎に装置してある荷役装置のデリックや、ステアリングエンジンを使用

用する場合があるので、それらの点検整備を平素よりしておく必要があります。

又、甲板部は手空きの者を動員して、俗に言うカン作業をという上甲板の鉄板を塗り、一時的に補修をする作業を行います。

機関部の作業はよく分かりませんが、予備エンジン等の整備点検をおこないつながら航行を続けます。

又、航行中のレジャーとして、甲板の広い場所にネットを張って打ち放しゴルフ遊戯です。玉にはゴム紐をつけてあり、打っては跳ね返って来ます。参加者は概ねワッチの無い舷長、機関長、ドクター、事務長等のサロン士官数人です。

その外は同好の者達による囲碁、将棋、マージャン等です。又、釣りの好きな人は、鳥の羽根を五・六枚束ねて、細いロ

ここにも弱肉強食の世界が展開されて居りました。そんな時に、たまたま飛魚がデッキの上へ飛び込んで、ばたばた跳ねていることもあり、

又、暇の人は一人でデッキ上で動物園の檻の中の獣の如く腕を組んで、ウォーキングの運動に熱中する人もあります。▲▲

## ●春夏秋冬●

堀谷 マサヨ

二千年の節目に合いしこの身なり  
変る世の中 光を求めて  
亡き主人の手紙の終りは 短歌つく  
来し方遠き 淡き思い出  
「冬来たりなば春遠からじ」  
寒さいとわず 咲く寒椿

## 「彭祖(の)の水」をどうぞ

深町水利組合 組合長 石井 静夫

弁に物語っています。世の中が進歩するに従って、川や池の水質が悪化し、水風景は劣化し山紫水明とうたわれた日本の水文化は危うくなりつつあります。

ここ数年前から、殺菌処理された安全な水道水より、自然の水を求めて高平ダム上流で取水する人が多くなりました。

この高平には岩場、溪谷が多く危険が伴うので、安全な水取場設置の声が高まり、ダムを管理する水利組合が三原市、尾道に陳情し、ようやく施設をつくることが出来ました。

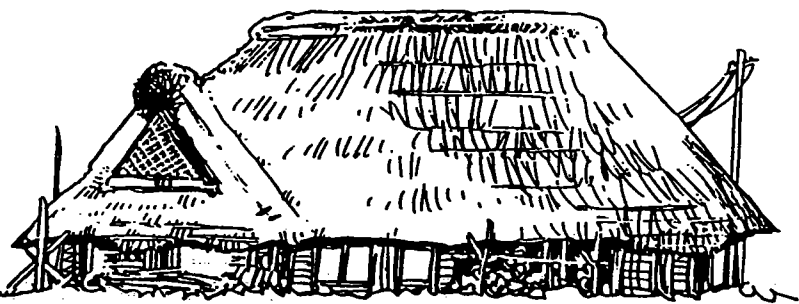
この水取場は、セメントや、ビニール管等は一切使用せず、自然のものを使い、水質を汚さないようにしました。汲み取り場は、平岡功一さん先祖数代を継いで受け継いだものです。

この水は、高平に降った雨が貯水となり、御調坂(みんがせ)を源流として砂場を降り、岩場を縫うて彭祖の滝へと流れ出るこの滝で、水飛沫を浴びたので「湧水彭祖の水」と言われています。

その昔、多くの文人が訪れ、彭祖の美しさと、うまさに驚嘆したと言ひ伝えられています。上流には水を汚すものは一切なく、サラサラと流れる水音はとて莫く響く。この水音と清冽さから独特の深い味わいが醸し出される。これを名水と言います。

この水は、平素深町の灌漑用水(農業用水)に充て、余水を久山田水源池に送り、水質浄化に役立て尾道市の上水道用水として使用されています。

量は少なくとも、ほんの少し湧き出る清らかな水。ほのかな甘味とまろやかな口当たり、五臓六腑にしみわたる天然の水。美しい山と森。水を蓄えてくれないようにみながら守りましよう。▲▲



「へうへう」として水を味ふ」山頭火

安全できれいで、そしておいしい水が最近脚光を浴びるようになりました。

水にまつわる名称も、自然水・天然水・源流水・名水と色々あり、これ等はすべて独特な味わいがありましよう。清らかにして澄んだ水、その味のよさ、四季の移り変わりとともに微妙に変わりゆく水環境。人々は長い歴史と生活の中で、優れた水感覚を養って来ました。

水に因む言葉が多く、水と私たちの豊かにして鋭い生活を雄